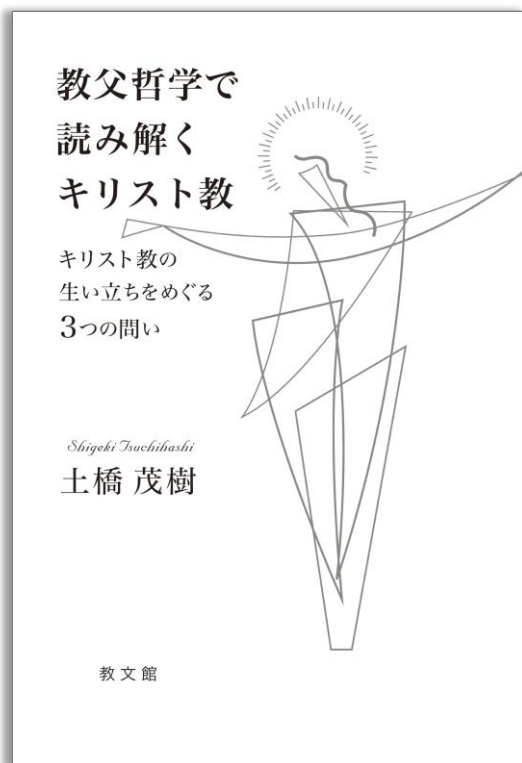


教父哲学で読み解くキリスト教



キリスト教の生い立ちをめぐる3つの問い

土橋茂樹著

ISBN 978-4-7642-6176-1 C0016

四六判・並製・240頁 定価2,640円（本体2,400円＋税）

イエス・キリストはどのような存在と とらえられてきたのか

2～4世紀に活躍した東方教父（ギリシア教父）たちは、
古代ギリシア由来の哲学的な考え方をどのように用いて、
教義の土台となる「キリスト論」を形成したのか。

キリスト教の根本思想の背景を明快に解き明かした入門書！

目次より

第1章

なぜイエス・キリストは《御言葉》と呼ばれるのか？

第2章

なぜイエス・キリストは《子》と呼ばれるのか？

第3章

なぜイエス・キリストは《神の像》と呼ばれるのか？

土橋茂樹（つちはし・しげき） 1988年上智大学大学院哲学研究科博士後期課程単位取得満期退学。

現在、中央大学文学部哲学科教授。専門は古代中世哲学、教父学。

著訳書 著書『教父と哲学——ギリシア教父哲学論集』（知泉書館、2019）、『哲学（新版）』（中央大学通信教育部、2019）、『善く生きることの地平——プラトン・アリストテレス哲学論集』（知泉書館、2016）ほか、
編著『存在論の再検討』（月曜社、2020）ほか、訳書、アリストテレス「色彩について」「聴音について」
「観相学」「植物について」（翻訳・訳注・解説、『アリストテレス全集12 小論考集』岩波書店、2015）、
R. ハーストハウス 『徳倫理学について』（知泉書館、2014）ほか多数。